

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3591000124		
法人名	有限会社 兼清メディカルサービス		
事業所名	グループホーム浅江		
所在地	山口県光市浅江3丁目1-25		
自己評価作成日	平成 31 年 2 月 18 日	評価結果市町受理日	令和 1年 8月 6日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成 31 年 3 月 29 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

協力医療機関のかかりつけ医による月2回の回診、緊急時や夜間の回診、希望者には電気治療が受けられるように支援しています。看護師による健康管理や状態観察を行っている他、急な体調変化や異変に気付いた際には医師に報告し、指示を仰ぎ、すぐに適切な対応ができるため、本人や家族の安心につながっています。食事は、毎日おいしく・楽しく食べていただけるように、利用者一人ひとりの健康状態や好みに合わせた食事形態や栄養バランスのとれた献立の作成に配慮しています。旬の食材を使った料理、季節に合わせた行事食、手作りのおやつ、本人の食べたいものを出来るだけ提供できるように努めています。本人らしく、安心安全に過ごすことのできるよう配慮しています。コミュニケーションを大切に、利用者・家族との良好な関係性の構築ができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所の理念「長年住み慣れた地域で暮らしましょう」「老いても人間らしく美しく暮らしましょう」「美味しく食べて元気になりましょう」「病気と共生し生きましょう」を、ミーティング時の研修で話し合っ確認され、共有して実践につなげておられます。馴染みのスーパーでの買い物や美容院の利用、地元の神社へのお参りなど、馴染みの人や場所との関係を大切にして支援しておられます。職員は個人の尊厳を大切にされて、プライバシーを損ねない言葉かけや対応しておられます。おやつづくりや季節の行事食(おせち、七草がゆ、恵方巻き、ひな祭り、ちらし寿司、祝日の赤飯)、誕生会のケーキづくり、家族との夕食など、食事を楽しくするように工夫されて支援しておられます。病気があっても、馴染みのかかりつけ医や看護師の協力を得て、安心して日々過ごせるように支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を事業所内に掲示している。日常業務の中で理念を共有し、実践につなげている。	地域密着型サービスの意義をふまえた理念をつくり事業所内に掲示している。ミーティング時の研修で話し合っ確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板や広報が届いている。回覧板は利用者と一緒に隣の家へ回しに行く時もある。地域の文化祭に作品を出展し、見学に出かけたり、敬老のつどいに参加している。又、系列施設での行事に参加し、地元の小学生やボランティア(ハーモニカ、餅つき、フラダンス、水墨画、花まつりなど)と交流したり、散歩や近所のスーパーでの買い物時に地域の人と挨拶を交わしたり、会話をしたりすることがある。又、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加し、講師として協力している。	自治会に加入している。利用者は、花まつりや神社の節分祭にでかけたり、浅江公民館の文化祭に利用者の作品を出展し見学に行っている。系列施設での行事(小学生との交流、ハーモニカ演奏、フラダンス、水墨画、もちつき)に参加をしている他、併設の病院に来る知人との交流や馴染みのスーパーに出かけた時に挨拶を交わしている。中学校の認知症の声かけ訓練に職員が講師として協力をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設へ来られた方には出来るだけ入居者に関わって頂き、それを通じて認知症の方々の理解を深めて頂けるよう努めている。又、運営推進会議の中で出席者から認知症の方への対応についての相談があり、出来る限り対応している。又、職員が地元の中学校である徘徊模擬訓練に参加し、講師として協力している。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員全員がガイド集を基に評価の意義を学習し、理解した上で、個々でシートへ記入し、全員の意見をまとめて作成している。外部評価で指摘された項目については目標達成計画を立て、職員や推進会議メンバーと話し合っ、改善に向けて出来ることから取り組んでいる。	管理者は、職員に評価に意義について説明し、自己評価をするための書類を全職員に配布して記入してもらい、管理者がまとめたものを職員が確認している。目標達成計画を作成し、地域との協力体制を構築するために、地域の行事への参加や中学校の「認知症の方への声かけ訓練」に講師として協力をしているなど、できることから改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や行事の報告、外部評価についてなど事業所の取り組みを報告し、意見交換している。会議の中で施設として必要なことや困っていることをテーマに挙げ、話し合いを行い、参加者からの意見や助言をサービスに活かしている。	会議は年6回開催し、内3回は法人のグループホームとの合同で開催している。利用者の利用状況や行事報告、行事予定、ヒヤリハット・事故報告、外部評価について話し合っている。会議の中で認知症の人との接し方やボランティアの受け入れについて話し合い、サービスの向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議時や役所へ出向いた時、電話で相談して助言を得たり、情報交換を行っている。又、問題や相談があるときにはその都度連絡を取り、密に協力関係が築けるように努めている。	市の担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向いて相談して助言を得ているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行い、職員全員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者個々の状態や行動パターンを理解した上でケアを行い、拘束しなくても安全が確保できるように職員同士が連携しながら日々のケアに取り組んでいる。	内部研修で身体拘束について学び、全職員が正しく理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になることがあれば、管理者が指導している。利用者が外出したい時には、職員と一緒に出かけている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。虐待のサインを見逃さないよう入浴時や着脱時には身体チェックを欠かさずに行っている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	それぞれの制度についての知識を得るために研修を行い、職員全員が正しく理解できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には重要事項をきちんと説明している。また、入所にあたっての不安や疑問点についてしっかりと話し合い、理解していただけるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に重要事項説明書に基づいて家族に説明している。面会に来られた際や推進会議に出席された際には意見や要望を聞くようにしている。あまり面会に来られない家族には電話やメールで情報を伝えている。又、職員から積極的に声掛けを行い、利用者の近況を報告したり、相談したりと気軽に意見や要望が言えるような関係性作りを努めている。家族からの意見や要望は申し送りノートを活用して職員間で共有している。	契約時に、苦情、相談の受付体制や処理手続きを家族に説明している。面会時や運営推進会議参加時、夏まつり等の行事参加時に家族からの意見を聞いている。遠方の家族とは、電話やラインメールを活用して意見を聞いている。行事や運営推進会議への参加を呼びかけ、家族との関係づくりに努めている。運営に反映させるまでの意見は出していない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ミーティングを開催し、業務内容や利用者へのケア内容について一緒に話し合う機会を設けている。又、職員の中で出た意見や要望があれば、その都度話し合いを行いながら調整している。	管理者は、月1回のミーティングや日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いている。朝食を、ご飯からパン食に変更し、食事が増えたり、行事に合わせて職員を増やすなど、反映させている。管理者は職員の意見を代表者に伝えている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現場での職員個々の力量や勤務状況を把握し、それに応じた勤務内容や勤務形態にし、より働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの力量を把握し、それに応じた資格取得や外部での研修を受ける機会を提供している。職員が学びたいことをテーマに挙げ、年間の研修計画を立てている。毎月交代で講師を務めて内部研修を行っている。	外部研修は、職員に情報を伝え希望や段階に応じた研修に受講の機会を設けてはいるが、この1年間は参加できていない。内部研修は、教育研修(認知症の理解とケア、個人情報保護法、虐待防止対策、身体拘束廃止、成年後見制度、プライバシー保護等)と技術研修(心肺蘇生法、火傷時の対応、食事ケア、口腔ケア、誤嚥時の対応、高縮予防と改善、車いす移乗・移動等)を行い、月2回実施している。新人職員には、担当の職員がついて、働きながら学べるように支援している。	・外部研修への参加の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や外部での研修へ職員が参加する機会があり、他施設の状況やサービス内容についての情報交換を行っている。そこでの学びを持ち帰り、職員同士で情報共有をしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族との面談を行い、本人の希望や要望、不安など十分に聞き、要望に合わせたサービスの提供に努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との面談を行い、家族の困っていること、不安、要望をしっかりと聞き、少しでも不安が解消し、安心して頂けるように努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談時、十分な話し合いを持ち、本人と家族のニーズをしっかりと見極め、一番必要としているサービスを提供できるような対応に努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者それぞれの身体状態に合った役割(食事準備、洗濯干し・たたみ、シーツ交換など)を利用者と職員が一緒になって行っている。又、コミュニケーションを大切にし、利用者についてより理解し、分かりあえる関係性作りに努めている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が面会に来られた時には本人についての近況を伝えるようにしている。ケア内容について分からないことがあれば家族に相談している。又、職員では対応出来ない部分は家族にも協力して頂いている。(他医療機関への受診、外出支援、不穏時の対応等)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や親戚、友人や近所の人の面会が頻繁にあり、利用者の安心につながっている。家族の協力を得て、お正月や法事等の家族での行事への参加、一時帰宅や外食、お墓参り、行きつけの美容院の利用等、今まで行ってきたことが継続できるように支援している。又、ドライブや買い物レクで利用者の行きたい場所や店に出かけられるよう支援している。手紙や年賀状のやり取りが出来るよう支援している。	家族の面会や親戚の人、友人、近所の人の来訪がある他、手紙や年賀状、携帯電話の使用、電話の取り次ぎなどを支援している。ドライブで馴染みのスーパーや地元の神社、墓参りに出かけている。家族の協力を得て、法事や墓参り、一時帰宅、外食、美容院の利用等、馴染みの関係が継続できるように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの性格や利用者同士の関係性を十分に理解し、なるべく穏やかに良好な関わり合いを持つことが出来るよう努めている。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了した場合でも、その後の経過を見守り、必要に応じて相談や支援を行い、本人が安心できる生活環境作りの手助けを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションを大切にし、何でも言い合えるような関係性を築けるようにしている。日常会話の中から本人の希望や意向を把握して記録に残すようにしている。困難な場合には日々の言動や表情から推測し、職員間で話し合い、家族からの聞き取りを行い、本人本位に検討している。	入居時や更新時のアセスメント(基本事項、生活状況、生活歴、健康状態、ADL、IADL)を活用している他、日々の関りの中での利用者の言動や表情を「介護・看護記録」や「介護チェックシート」に記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの聞き取りを基に本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者とのコミュニケーションを大切にし、日頃の会話の中で本人から直接聞いたり、家族・知人から情報収集するようにしている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、状態を記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。いつもと違うと感じたときには「介護・看護記録」へ詳しく記録するようにしている。又、「利用者生活状況」のシートを活用し、状態をこまめにチェックするようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議を開催し、本人・家族・医師・看護師・職員の意見を参考にして、話し合い、介護計画を作成している。3ヶ月毎にモニタリングを行い、見直し、変更をしている。状態変化があった場合には、その都度、担当者会議を開催し、現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族、医師、看護師の意見を参考にし、担当者会議で話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎のモニタリングと見直しをしている。利用者の状態に変化があった時はその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容は個別に記録し、職員が把握できるようにしている。この記録をもとに、介護計画を作成、見直しを行っている。又、全職員が共有したい情報は「申し送りノート」に記入し、引き継ぎを行っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関への受診の送迎や付き添い、外出やお墓参り等は本人や家族の意向を聞き、都合やニーズに合わせて柔軟に対応している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	系列施設でのボランティア(ハーモニカ演奏・水墨画・フラダンス・餅つき)、小学生来訪時には積極的に参加し、利用者の持っている力を発揮できる機会を提供できるよう努めている。又、民生委員や自治会長に運営推進会議に出席して頂いている。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回のかかりつけ医による訪問診療を受けられる。必要に応じてすぐに医師へ報告をしたり、指示を受けたりと、適切な医療が受けられる体制を築いている。受診結果は家族へも面会時や電話で報告している。他の科への受診は家族の協力を得て支援している。その際に移動が困難な場合には職員も協力して行っている。又、看護師が勤務しており、日々の健康管理や状態観察を行っている。夜間や緊急時には、医師へ連絡し、指示を受けて対応している。	利用者や家族の希望で、事業所と同一建物にある協力医療機関をかかりつけ医とし、月2回の訪問診療を行っている。他科受診は、家族の協力を得て、職員が送迎や付き添いを支援している。受診結果は電話や来訪時に伝え、職員は申し送りノートで共有している。看護師による、日々の健康管理や状態観察を行い、異常の早期発見に努めている。夜間や緊急時はかかりつけ医の指示を仰いで対応しているなど、適切な医療が受けられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日看護師が勤務して、適切な健康管理や状態観察を行っている。また、同一建物内に病院があるため、状態変化に気付いた時にはすぐに医師、看護師に報告し、対応を相談している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院となった場合、職員が必ず付き添いを行い、本人についての情報を出来るかぎり伝え、治療がスムーズに行えるよう対応している。又、病院関係者や家族と連絡を密にとり、治療の経過や本人の状態、施設での日頃の様子や対応等の情報交換を行い、安心して治療できるよう努めている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化についての指針を家族に説明し、同意を得ている。本人・家族の要望に沿った対応ができるよう、医療機関の協力のもと出来るかぎり対応している。状況に応じて家族と繰り返し話し合いを行い、方針を共有して支援を行っている。	契約時に、重度化についての指針に基づいて家族に説明し同意を得ている。重度化した場合は、早い段階から、医師や看護師、家族と話し合い方針を決め、支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハット・事故報告書に記録して、その都度対応策を話し合い検討している。他職員へは申し送り時に報告している。毎月、事故対策会議を行い、利用者の身体状況に応じた事故防止策を考え、再発防止に取り組んでいる。又、応急処置の研修を行い、知識・技術を身につけることができるよう取り組んでいる。	ヒヤリハット・事故報告書にその場にいた職員が記録し、対応策を検討し、職員で共有している。月1回のミーティング時に事故対策会議で検討し、再発防止に取り組んでいる。法人研修で、緊急時の対応(心肺蘇生法、火傷時の対応、転倒・転落、誤嚥)について研修をしている。	・全職員による応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、併設医療機関と合同で夜間の火災を想定した避難訓練、消火訓練、通報訓練を行っている。災害の際には、同一建物内にある病院の職員の協力体制がある。火災時の消防署へ直通の通報装置の設置や職員の緊急連絡網の設置をしている。	年2回、併設医療機関と昼夜間想定した避難誘導訓練、消火訓練、通報訓練を実施している。災害時の食料や水の備蓄をしている。地域の災害時の救助名簿の作成を検討中で、協力体制の構築までには至っていない。	・地域との協力体制の構築

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての研修を行い、職員全員が正しく理解できるよう取り組んでいる。利用者一人ひとりのその人らしさを大切に、個々に合わせた対応をしている。言葉遣いには特に気を付け、自尊心を傷つけない声かけを心がけている。職員は個人情報の管理や守秘義務についても理解した上で、日常の業務を行っている。	法人研修で、プライバシー保護や個人情報保護について学び、職員は正しく理解している。利用者の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。個人記録は適切に保管し、守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の生活の中で、利用者が何でも言いやすいような関係性や雰囲気作りを心がけている。又、些細なことでも本人に決めて、行ってもらえるような声掛けを行うように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の過ごし方は人それぞれで、利用者本人に決めてもらっている。なるべく部屋でもりきりにならないよう上手く声掛けし、ホールに出てもらい、利用者同士の交流も大切にしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	能力的に可能な利用者には、自分で服選びを行ってもらっている。できない利用者に対しては、職員が本人の好みと気分に合わせてその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。家族の協力のもと、出来るだけ行きつけの美容院を利用してもらっている。毎月移動美容院に依頼し、散髪を行ってもらっている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は職員が作り、昼食・夕食は法人からの配食を利用している。好みや体調に合わせて、その都度、食事形態や内容を変更・改善している。季節感や利用者の好みを取り入れた献立を栄養士が作成している。季節の行事食(おせち、恵方巻等)やおやつ作り(かき氷、どら焼き、ぜんざい、クリスマスケーキ等)、餅つき、家族の協力を得て外食するなど、食事を楽しむことができるように支援している。	昼食と夕食の副菜は法人からの配食を利用し、朝食とご飯、汁物は事業所でつくっている。利用者一人ひとりの状態に合わせて、ミキサー食や刻み食など食事形態に配慮をしている。おやつづくり(ホットケーキの粉を混ぜる、パフェの果物を切るなど)、行事食(おせち、七草がゆ、恵方巻き、ひな祭り、ちらし寿司、祝日の赤飯など)、誕生会はケーキの飾りつけをしている。系列施設での餅つきに参加したり、家族の協力を得て外食を支援しているなど、食事を楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成しており、栄養バランスの良い食事を提供することができている。個々の摂取量を毎回記録して、必要な食事量や水分量摂取できているかをチェックしている。身体状況に合わせて食事形態を変更し、必要な栄養を口腔から摂取できるよう支援している。水分摂取を拒否する利用者に対してはその理由を考え、種類や形態を工夫し、出来る限り水分を摂取できるように努めている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨きへの声掛け・誘導を行い、食後の歯磨きが習慣となるように取り組んでいる。一人ひとりの残存機能に応じた支援を行い、口腔内の清潔が保たれるように支援している。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	チェック表を用いて一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。個々の状況に合わせて声かけ、見守り、誘導、介助を行い、出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援している。	排泄チェック表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導をして、トイレで排泄や排泄の自立に向けた支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘がちな利用者に対して、乳製品を摂取してもらったり、水分摂取回数を増やしたり、運動をしてもらったりと個々に応じた予防に取り組んでいる。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	週3回、利用者個々の身体状態・本人の希望に合わせて一般浴・シャワー浴・清拭等の入浴支援をしている。入浴を拒否される利用者には、言葉かけや対応を工夫したり、タイミングを見ながら本人のペースに合わせて対応している。	入浴は、月、水、金の9時30分から12時までの間可能で、利用者の希望や体調に合わせて週3回は入浴ができるように支援している。シャワー浴や清拭、足浴を行っている。入浴したくない利用者には、タイミングを見て再度声かけをするなど工夫し、利用者のペースで入浴ができるように支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の身体状態に応じて適度に休息して頂いている。夜間不眠がちな利用者に対しては日中の活動(軽作業や会話等)を出来る範囲で増やし、夜間良眠できるようリズム作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局より説明書をもらい、一人ひとりの処方されている薬について把握できるように努めている。薬の処方の変更された時には状態をしっかりと観察し、その都度、医師へ報告するようにしている。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の好きなこと・やりたいことを出来る限り実現できるように個別に支援を行っている。季節ごとの行事や誕生日会を行ったり、生活支援として、洗濯干し・たたみ、ゴミ袋作り、食事準備等の家事を行ってもらい、本人の能力を活かした役割や、楽しみごとが出来るように支援している。又、系列施設での行事や合同レク、ドライブ・散歩・買い物のレクを行い、気分転換が図れるよう支援している。	テレビ視聴(歌番組、時代劇、スポーツ)、水墨画、書道、川柳、俳句、はり絵、折り紙、カルタ、トランプ、カードゲーム、新聞や雑誌を読む、紙芝居、ゲームで使う道具づくり、風船バレー、ビンゴゲーム、脳トレ(計算、漢字、間違い探し)、テレビ体操、CD体操、口腔体操、洗濯物干し、洗濯物たたみなど、活躍できる場面をつくり、楽しみごとや気分転換が図れるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出できる機会を設け、希望する場所や馴染みのある場所へ出かけることができるよう支援している。公園を散歩したり、季節を感じられるよう花見に出かけたり、神社へお参りに行ったり、近所のスーパーに買い物に行く等している。家族や親戚、友人等も協力的で、本人の意向に沿うように外出、外食、外泊、一時帰宅が自由に出来るように支援している。	周辺の散歩や馴染みのスーパーに買い物に出かけている。季節の花見(梅、桜、菜の花、ツツジ、紫陽花、彼岸花)、ドライブ(普賢時、海を見に行く、虹ヶ浜)、神社へのお参り、家族の協力を得て、外泊や外食、美容院の利用、葬儀や法事への出席、墓参り、結婚披露パーティーに参加しているなど、外出ができるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に応じて家族と話し合い、本人の能力を考慮した上でお金を所持して頂いている。買い物へ行きたいという希望がある場合には近隣スーパーや馴染みの店で買い物ができるよう支援している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の能力に応じて、事前に家族の了解を得た上で、手紙や年賀状、電話のやり取りができる様に支援している。又、自由に電話ができるよう携帯電話を所持している利用者もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3階のため見晴らしがよく、生活風景や自然を感じることができる。住み慣れた街の風景が見えることで、安心して生活できている利用者も多い。対面キッチンのため、調理の音やにおいて生活感を感じることができる。壁飾りを利用者と一緒に作成し、季節感を感じて頂けるように配慮している。温度や湿度、換気に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	系列の病院の3階に事業所があり、遠くの町並みが見える風通しの良い共用空間は明るい。室内には、季節の壁飾りや大きなカレンダーを飾り、生け花を行けて、季節を感じられるように工夫している。キッチンからは調理の音や匂いがして生活感を感じることができる。温度や湿度、換気に配慮し、居心地良く過ごせるような工夫をしている。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室は全室個室により、プライバシーが保たれている。ホールにはテーブル、ソファを設置し、共用空間となっている。面会時の家族とのふれあいや気の合う入所者同士のふれあいの空間となっている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた使い慣れた家具や布団、衣類等を持ち込み、居心地良く快適に暮らすことのできる居室作りを利用者・家族と共に考えている。家族写真や利用者の作品、花などを飾り、より本人らしい安心できる空間となるように工夫している。	使い慣れた家具(整理ダンス、衣装ケースなど)、布団、化粧品等の生活用品、テレビ、置時計を持ち込み、家族の写真、カレンダー、生花、自分でつくった俳句、孫が描いた習字、自分でつくった作品を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はすべてバリアフリー対応になっており、廊下やトイレ、浴室には手すりを設置し、安全に安心して行動できるように配慮されている。又、居室での転倒が多い利用者に対しては家具の配置を工夫し、安全かつ自立した生活が出来るよう支援している。		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム浅江

作成日: 令和元年8月6日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	事故防止の取り組みや事故発生時の備え	事故発生時の応急手当や初期対応の定期的な訓練を継続して行い、全職員の実践力の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> 施設内研修で看護師の指導のもと、様々な症状別に実践的に訓練を行う 外部での研修にも積極的に参加する 特定の職員のみが出来るのではなく、全職員が対応できるようになる 	1年
2	36	災害対策と災害時の地域との協力体制の構築	災害時の備えをさらに充実させていく	<ul style="list-style-type: none"> 地域での行事に積極的に参加し、地域との関係の構築に努める 地域の防災体制について理解を深める 消防署の指導の元、避難訓練を実施する 火災だけでなく、地震を想定した避難訓練を定期的実施する 	1年
3	14	外部研修への参加の機会を工夫	全職員が外部研修を受ける機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> 研修の案内を全職員が閲覧できるようにする 興味や関心のある研修には積極的に参加できるような体制づくり 施設内研修の内容を充実させる 	1年
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。